

冬の子供の肌トラブル 予防&ケア 4

皮膚科

やけど

原因

火や熱湯など、熱い物に触れて皮膚が傷つく

症状

症状の重さによって、Ⅰ度～Ⅲ度に分けられる。Ⅰ度は表皮が赤くなり、ひりひりする程度。Ⅱ度は真皮に達し、水ぶくれができたり、潰瘍化したりする。Ⅲ度は、皮下まで焼けた状態で、皮膚は壊死しており、傷みも感じない。

予防

最近、園ではやけどをするような状況は少ないが、家庭におけるストーブなどの暖房器具や熱い食べ物などによるやけどで受診する子どもが多い。家庭で十分に気を付けてもらうよう、喚起することがたいせつ。

ケア

●流水で10分以上患部を冷やす。着衣の上からでもよい。冷やすことで、やけどの進行を止めることができるだけでなく、痛みも抑えることができる。

●Ⅱ度以上のやけどの場合は、水で冷やしたあと、患部を食品包装用ラップフィルムで包み、タオルに包んだ氷でさらに冷やしながらかかる病院へ。浸出液が多い場合は、その上から、紙おむつなどでくるむとよい。子どもは感染しやすいので、必ず受診する。

●消毒液とガーゼは使わない。最近の研究で、それらを使わないほうが治りが早いことがわがっている。



2008.3

むとう みか
● 武藤 美香
日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

医療法人社団めぐみ会

田村クリニック2

東京都多摩市落合1-35 ライオンズ多摩センター3F

<https://www.tamuracl2.com/>

予約・お問い合わせ

042-357-3671

※科目により診療時間及び受付時間が異なります。
詳しくはお問い合わせください。

ホームページ

